

あ と が き

平成16年は自然災害の多い年で、帰国の翌日も、東京でも相当な揺れが感じられ時差ぼけの頭を覚めさせた新潟中越地震には驚かされました。

調査団はというと、日本国内ではこの時期、毎週のようにやって来る台風の波状攻撃に大変だったようですが、なぜか、移動日や休日だけが少し雨や雷にあたりただけで、概ね良好な天候に恵まれて調査する事が出来、団員の皆さんの日ごろの行いの良さ、或いは、悪運の強さを思い知らされました。

今回の調査団は、20名参加のうち木下専務理事を始め約半数が初参加、また平均年齢もぐっと下がったようで、工業会も世代交代の時期に入ったなど痛感しました。そのせいか、皆さんまじめで、最終処分場の悪臭漂う中などでも精力的に視察を行う姿には感心させられっぱなしでした。(成果については、本報告書に詳しい。)

また、調査視察の間には、日ごろあまり会う事のない者同士が、三位一体改革による補助制度の今後について、あるいは全都清の現状と将来について、また、我々が置かれている環境営業の営業環境について、などいろんな事をお互い語り合う良い機会も持て、非常に有意義なものでありました。

本ツアー中、団員の皆さんからの不平不満もほとんど聞かれず、大したトラブルも無く、また、レストランで「もっとうまいものを出せ」だの「もっと良いワインを飲ませろ」などと我が侘を言う人もなく、非常にスムーズな調査団でした。

今回、これが達成できたのもひとえに近畿日本ツーリスト久保田添乗員のフットワークの良さと、村河実行委員長、赤澤同副委員長の心のこもった気遣いと骨身を惜しまぬお世話のお陰でした。ここに改めて感謝申し上げます。また、出発直前までスケジュールの変更調整などご苦労頂きました工業会の田村企画室長にもこの場を借りて御礼申し上げます。

社団法人 日本環境衛生施設工業会
第11回 海外環境事情調査団 団長
企画運営委員会 委員長 松村 史朗